

## 日常の読書生活を見つめ直そう

—読書論を読み、読書論を書こう「わたしと本」(第6学年)—

船津啓治

### ◇ 本について考える単元

光村図書平成23年度版の教科書には、本自体を取り上げ、本そのものについて考える単元が全学年に位置付けられている。以下の通りである。

第1学年「ほんはともだち」学校図書館を利用し、好きな本を紹介する

第2学年「きみたちは、「図書館たんていだん」」学校図書館の本の並び方や分類の仕方を理解し、本を探す。

第3学年「本は友だち」公共図書館を利用し、本の選び方を理解し、本を紹介する。

第4学年「読書生活について考えよう」読書生活について調べ、調査報告書を書く。

「本は友達」目的や文章の種類に応じて読み、ポスターを作って発表する。

第5学年「わたしたちの「図書館改造」提案」学校図書館の現状を知り、提案書を書く。

第6学年「わたしと本」自分の読書傾向を掴み、著名な作家の読書論を読む。

これまでの教科書に比べ、子どもが本について考えていける点で充実している。他の教科書会社においても同じことが言える。

今回は、この中から、第6学年の実践を報告する。

### 1 単元 日常の読書生活を見つめ直そう —「わたしと本」— 第6学年

#### 【教材】

- (1) 教科書教材「わたしと本」光村図書、2011. 2
- (2) 朝の読書推進協議会『みんな本を読んで大きくなった』メディアパル、2002. 12
- (3) 朝の読書推進協議会『いつでも本はそばにいる』メディアパル、2003. 12
- (4) 金原瑞人監修『金原瑞人監修による12歳からの読書案内』すばる舎、2005. 12
- (5) 担任・旧担任教師の読書論

## 2 子どもの学習経験から単元の設定へ

子どもたち（男子14名、女子15名、計29名）は図書室に行き、本を借りて読むことは好んでいる子どもが多い。しかし、読書傾向としては、それぞれの偏りが多く、決まったジャンルを読む子どもが多い。漫画を読む子どもは多く、文字だけの本に抵抗を示す傾向がある。国語の学習も好んでいない子どもが多く、敬遠しているところもある。自分の読書生活を見つめ直すことは夏休み前に1度経験している。

本単元では、「日常の読書生活を見つめ直そう」という課題をもたせ、読書論を読み、書く場の設定をした。また、読書の楽しさを伝えるために、多くの読書論を取り上げるようにした。3学期にも今回の学習と関連した単元を構想している。

本単元は、新学習指導要領国語科（平成20年3月）第5学年及び6学年「読むこと」の「本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること」を中心としている。「本を読んで推薦の文章を書くこと」という言語活動の充実を主眼としている。

## 3 「わたしと本」の価値と特性

本教材「わたしと本」は、自分の趣味や目的に応じて、多様な読書ジャンルが違ってくことを視覚的に学べるように工夫してある。また、質問に答えながら、自分の読書傾向が分かるように仕組みられている。

作家、村中李衣と宮部みゆきの読書論が紹介しており、両者とも文量を調整するために中略、後略がある。村中李衣は『長くつ下のピッピ』の主人公の行動に共感し、何度も再読したことが書かれている。雑誌のための書き下ろしである。宮部みゆきのものは、『みんな本を読んで大きくなった』の中に収められている。本を内気な友達に例え、一連の読書行為を勧めている。

両者の読書論以外にも『みんな本を読んで大きくなった』の中から20選を、読み聞かせをして紹介する。

これらの教材を学習することで6年生である読者は、教材と対話しながら、自分の読書傾向や経験を振り返ることができる。また、作家や教師、友達の読書論を読むことで読書のよさを感じ、読書する契機になるだろう。さらに、魅力的な読書論に刺激されて、自分でも書きたいという欲求を持つことができると考える。



【読書生活を振り返っている】

#### 4 単元構想の留意点

以下の点に留意して単元を構想した。

##### (1) 読書論の楽しさを十分に・作家や教師の読書論

指導計画の中に、読書論を読み聞かせて紹介することを位置付けておく。本単元を学習中に、朝の読み聞かせを欠かさず、授業における読み聞かせと連動する。教科書のものだけでなく、小学6年生の読者に合う読書論を20選び、いつでも並行読書ができるようにしておく。以下に示す。

河合 隼雄「なぜ人は本を読むのか」	伊藤たかみ「大切なサイフ」
赤川 次郎「本の中に自分がいる」	折原 みと「扉を開けて」
阿万田 高「五百万円のプレゼント」	角田 光代「自由と幸福、ということ」
井上 路望「本を読むと、自分の声が聞こえてくるんだ」	貴志 祐介「いつでも何度でも」
落合 恵子「いつだって、私の傍らには本があった」	小林 深雪「急いで！「魔法の時間」は十代限定。」
瀬名 秀明「昔の自分に本を贈る」	冨木 忍「心の糧に」
肥田美代子「大人に見えなくても、こどもには見える」	高橋 克彦「最初に読んだ本」
三田 誠広「自分を知り、自分の可能性をのぼす」	梨木 香歩「本読む同志たち」
宮部みゆき「内気な友達」	原田 宗典「読書とは何か？」
矢玉 四郎「命がけの本」	あまんきみこ「空の絵本」
	金原 瑞人「本にはまったのは、「大事件」がきっかけ」

旧担任の読書論も紹介し、懐かしい交流の場にもする。

##### (2) 目次やブックリストを活用して、選書力をつける

新学習指導要領国語科（平成20年3月）の特徴の1つとして、言語活動例の提示がある。本単元は、第5学年及び6学年「読むこと」の「本を読んで推薦の文章を書く」も意識し、目次やブックリストを活用して選書する力の育成も図るようにする。

##### (3) 「読むこと」と「書くこと」との関連を図る

作家が書いた読書論は魅力的なものが多い。よって、子ども読者にも刺激を与えることが予想される。読み進めるうちに、自分でも書きたくなる欲求を持つ子どももいるだろう。その気持ちを大切に書く活動を位置付ける。夏休み中に、推薦本の紹介文を書く活動に取り組んでいるので、ここでは、自分と本とのかかわりを重視して書かせたい。

##### (4) 友達と読書論の交流・文集を通して

作家や旧担任など、大人の書いた読書論だけでなく、同世代の子どもが書いたものを交流することで、本をより身近にとらえさせたい。

子どもが書いたものは1冊の学級文集にまとめ、いつでもどこでも読めるようにしておく。子ども同士の良い影響力を期待し、少しでも読書好きに近づけていきたい。

## 5 単元の指導目標

- (1) 読書に関する多様な質問に回答することで、自身の読書生活を振り返ることができる。
- (2) 作家や担任・旧担任教師の読書論を多数読むことで、読書論の特徴を捉え、読書への意欲を持つことができる。
- (3) 目次やリストを参考にして、自分で選択して主体的に読むことができる。
- (4) 読書論を読み、他者と交流したことを生かして、自分の読書論を書くことができる。

## 6 単元の指導計画（全4時間）

次	時	目 標	学 習 活 動	○ 指導上の留意点 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">読</span> 読書タイム等で読み聞かせする文章
第一 次	1	読書論を聞くことで、読書に興味を持つことができる。 読書生活を見直そうとする意欲を持つことができる。	①教師の読書論を聞き、読書月間の目標を決める。 ②「わたしと本」を読み、読書の目的とジャンルについて考え、自分の読書傾向を知る。 ③読書生活の在り方を交流し、学習課題「自分の読書生活を見直そう」を設定する。その後、学習計画を協議する。 [学習計画表]	○読書月間との関連を図る。  ○教科書に書き込ませながら考えさせる。 ○読書生活に偏りがあることや他者と交流して高まった意欲を、学習課題へと結びつける。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">読</span> 担任「龍馬のように」 あまきみこ「空の絵本」
	2	読書論を数多く読み、書くことに生かすことができる。	④村中李衣と宮部みゆきの読書論を読み、推薦図書を紹介し合う。 [ワーク①] ⑤目次を参考にして、20名の作家の読書論を選んで読み、感想を持つ。	○「共感」「納得」「おもしろい」「参考」「反対」に分けて線を引かせ、自分の考えを持たせる。 ○目次を見せ、読みたい気持ちを高めておく。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">読</span> 旧担任「メアリーポピンズ」
第二 次	3		⑥作家や教師の読書論を読み、読書記録に感想と好きな箇所を書き、整理する。 ⑦影響を受けた読書論を参考にして自分の読書論を書く。 [400～600字程度]	○モデルとなる読書論の構成を参考にして、本を何かに例えて書かせる。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">読</span> 旧担任「私を育ててくれた『アルプスの少女』」
	4	他者の読書論を読み、次の読書への意欲を持つことができる。	⑧全体で読書論を交流し合い、その後、単元全体の感想を話し合い、自己評価・相互評価する。 [ワーク③]	○友達の読書論のよいところを中心に、これまでに読んだ作品を整理する。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">読</span> 旧担任「ハリポッター」

## 7 学習の実際

### (1) 一次の展開 課題設定、学習計画の協議

1時間目は、読書に関するアンケートを採り、子どもの実態を把握した。以下のような実態であった。(単位は人数)

<p>Q どんとき、本を読みたくなるかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知りたいことがあったとき 7</li> <li>・ひまなとき 26</li> <li>・さびしいとき 2</li> <li>・楽しみたいとき 4</li> </ul> <p>Q どんな読み方をしているかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・じっくりと 16</li> <li>・ばらばらっと 8</li> <li>・必要なときだけ 3</li> <li>・おもしろそうなところだけ 8</li> </ul> <p>Q 本を選ぶとき、まず、どこを見るかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・題名 19</li> <li>・表紙 22</li> <li>・目次 3</li> <li>・作者(筆者)名 6</li> <li>・絵や写真 9</li> <li>・最後の場面 1</li> </ul>	<p>Q 読むと、自分にどんな変化が起きるかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい知識を得られる 5</li> <li>・新しい考え方を得られる 5</li> <li>・何も変わらない 6</li> <li>・楽しい気分になる 22</li> </ul> <p>(後は項目のみ)</p> <p>Q どのくらい本を読んでいるかな。</p> <p>Q どこで読むかな。</p> <p>Q どんな本が好きかな。</p> <p>Q どんな本が好きになれないか。</p> <p>Q これまで読んだ中で、いちばん心に残っている本の題名。</p> <p>Q もう一度読んでみたい本の題名。</p> <p>Q これから読んでみたい本の題名。</p> <p>Q 想像してみよう。もし、本のない世界があったとしたら、それはどんな世界かな。</p> <p>Q 本は何のために存在しているのかな。</p>
--	---

日常の読書生活を振り返る際には「字だけの本はあまり読みたくない」「漫画をよく読んでいる」「暇なときに本を読む」と言う子どもが特に多かった。

次に、教師の読書論「龍馬のように」を読み聞かせた。「先生になるきっかけが『竜馬がゆく』だったのでびっくりした」「先生が先生になったわけが分かった」と感想が続いた。「先生と坂本龍馬のつながりがよく分かった。『竜馬がゆく』を読んでみたいと思った」「読書で考えや行動までも影響するというのに共感した」というように、読書の大切さを感じさせることもできた。なお、子どもたちには「読書論」という言葉は使わず、「読書について書かれた文章」と呼ぶようにした。

これまでの読み聞かせ等で、子どもの読書への意欲は高まり、学習課題の設定にもスムーズに移行した。「読書の大切さをもっとよく知りたい」「読書について書かれた文章をできるだけたくさん読む」という読書行為に関するものが多く、中には、表現面に目を向けて「読書について書かれた文章を書きたい」と言う子どももいた。それらの発言を受けて、「読書について書かれた文章を読み、書こう」と、学習課題を設定した。

その後、学習計画を話し合っ決めていった。そのシートを使って、1時間毎、授業後に

わたしは、学習計画・評価表 十月四日 1-4 名前

○ 学習していくことを決め、学習計画を立てよう。

一 学習していくことを決める。

二 学習計画を話し合う。

三 学習計画を話し合う。

○ 読書について書かれた文章を読んで

読者の大切さを伝えたい。読書について書かれた文章をよんでみたい。

龍馬にとても感懐してゐるんだ。あ、と田べた。

本を読んで、いろいろなイメージを持てるようになった。ていた(本を)読んで

○ 学習していくこと ○ 学習計画表 学習計画を立てよう

これまでの読書生活を振り返る。

一言感想・評価

自分の読書生活

読者の大切さを伝えたい。読書について書かれた文章をよんでみたい。

龍馬にとても感懐してゐるんだ。あ、と田べた。

本を読んで、いろいろなイメージを持てるようになった。ていた(本を)読んで

○ 学習していくこと ○ 学習計画表 学習計画を立てよう

これまでの読書生活を振り返る。

一言感想・評価

自分の読書生活

資料①【学習計画・評価表(担任教師の読書論)】

自己評価する。単元を通して行うので前時、次時とのつながりも図ることができる。

授業の感想として、「自分の読書生活がよく分かった」「自分が読んできた本の振り返りができた」「自分があまり本を読んでいないことに気付いた」と、自分の読書の仕方をメタ認知することができた。

(2) 二次の展開 読書論を読み、読書論を書く

2時間目は、読書について書かれた文章を読み、感想を持つようにした。「共感」「納得」「参考」「反対」「おもしろい」という観点で読み進めた。

教科書の2つの読書論を読んだ後、目次を参考にして20の読書論から選択して読むようにした。

授業中に読む時間をできる限り確保するようにしたが、時間が不足したので、家庭学習でも並行して読み進めるようにした。

大人が読む本を読めるようになった。

(滋賀県大津市立唐崎小3年 牧田利)

前はあんまり長い本は読みたくなかったけど、いまはとも読みたいとおもいます。

(滋賀県大津市立唐崎小3年 河野宏彰)

本をしずかに読むと体がちがうって、いいきもちになります。

(愛知県大津市立唐崎小3年 中川翔太郎)

ぼくは、一番大好きな、読書好きもいだったけど、今は好きです。どうしてかというとな、本がおもしろいからです。

(北海道稚内市立赤谷小4年 阿戸理樹) 朝読書の楽しいことは、大はく笑えることです。

(北海道稚内市立赤谷小4年 鈴木美鈴)

本を読んでいると本の中の世界にう、実際にいるような気がして、読むのが楽しくなりました。

(東京都豊田区立緑小6年 高島海斗)

読書の時間が増えたことよって、自分に合った本を選べるよつになりました。

(東京都豊田区立緑小6年 田中怜奈)

何が起るかかわらないのでほんの少しだけ本が好きになりました。

(東京都豊田区立緑小6年 山本武史)

学校で読んだ本の続きがなくても読みたくなくなってしまつたら、塾へ行く電車の中でも読んでいます。

(京都府京都市立松崎小5年 上林 明)

なんで本なんか読まんなんの、と思つてたけど好きな本ではまってしまいました。

(京都府京都市立松崎小5年 上林 明)

一本(子供)では朝の読書をしていふ供たちの感想を紹介しています。(注：学年は書いてある時のものです)

資料②【読書論の一部『みんな本を読んで大きくなった』より】

3時間目も読書論を読み続け、その中から3-5点を選択し、一言感想と好きな箇所を書き出させた。以下、紹介する。

読書っていいなリスト

六年一組十五番

○ 読書について書かれた文章を読もう。

- 村松幸衣 「あの二冊(二冊「長つ下のピシヒ」)
- 河合幸雄 「なぜ人は本を読むのか」
- 赤川次郎 「本の中に自分がある」
- 阿万田高 「五百万円のプレゼント」
- 井ノ原聖一 「本を読むと、自分の心が開いてくるんだ」
- 渡合恵子 「いつだって、自分の傍には本があった」
- 別荘秀明 「昔の自分に本を贈る」
- 肥田美代子 「大人に読まなくても、どこにもは見えない」
- 三田隆一 「自分を語り、自分の可能性をのぼす」
- 西岡みゆき 「命がけの読書」
- 矢五郎雄 「ながげの本」
- 伊藤たかみ 「大切なサイエ」
- 折原ひと 「扉を開けて」
- 阿万田代 「いつでも何れでも」
- 貴子祐介 「いつだって魔法の時間」
- 小林深雪 「急いで！魔法の時間」
- 心平正一 「心に」
- 水原浩亮 「最初に読んだ本」
- 原田春典 「本を読むとはなに」
- 原田宗典 「読書とは何かを」
- あまんきさき 「20歳の絵本」
- 金原環人 「本にはまつたのは実条件がつかげ」

○ この中から五つ選び、一言感想と好きなところを書こう

本の中は自分

最初が、  
すくすく  
おもしろい  
ななな  
おもしろい  
ななな

五百万円のプレゼント

読者の苦味  
おもしろい  
おもしろい  
おもしろい  
おもしろい

本を読む、自分の

ほんとに  
おもしろい  
おもしろい  
おもしろい  
おもしろい

大切なサイフ

意味が  
おもしろい  
おもしろい  
おもしろい  
おもしろい

召使い魔法の時間は14分限定

おもしろい  
おもしろい  
おもしろい  
おもしろい  
おもしろい

資料③【読書っていいなリスト】

後半は、これまで読んだことを書くことに生かすようにした。「内気な友達」を分析して、自分と本とのかかわりについて書いた。字数は、400字程度が多かった。

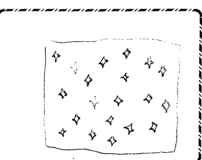
### (3) 三次の展開

前半は、3時間目に続いて読書論を書き、後半はそれを交流する時間にした。交流は、グループを中心とし、よく書けていたものから6点紹介した。帰りの会等も利用し、あと6点紹介した。大きな成果は、「読書しよう」という気持ちを持たせることができたことだ。また、「私もそろそろ読書しなきゃ」「字だけの本にも挑戦しよう」という感想が示すように、これまであまり読書をしなかった子どもたちの心にも揺さぶりをかけることができた。

## 8 全体の考察と今後の課題

### (1) 読書論を書くこと

子どもが読書論を書くことで、自身が本をどのように思っているのが明確になった。顕著だったことは、以下のように、本を友達に例える子どもが半数ほどでとても多いことだ。

<p>それは本を讀み終わつた後、心も輝いているように感じられるからだ。</p> <p>300</p>	<p>と見て選んでもいいと思う。</p> <p>300</p>	<p>星は、ハッとして見て、好きになる。それと同じで本を選ぶときはハッと表紙</p> <p>300</p>	<p>何千何万もある本の一つを讀んでいて、本を大切にしたいと思う。</p> <p>300</p>	<p>星</p> <p>いる星を探す。それと同じようにして、自分の好きな本を探し出して</p> <p>200</p>		<p>僕にとっての本</p> <p>6年生</p> <p>25</p>	<p>僕は、本は無数にある星だと思ふ。それは、本を選ぶということだと思ふからだ。</p> <p>100</p>	<p>なせなら、本は沢山あるからだ。だから、同じように沢山ある星から一つを選んでみようと思ふ。</p> <p>100</p>	<p>夜、数ある星の中から一つ一つを見て、自分の好きな星を探す。それと同じようにして、自分の好きな本を探し出して</p> <p>100</p>	<p>切な存在なので、これからたくさん本を讀みたいです。</p> <p>400</p>	<p>切な存在なので、これからたくさん本を讀みたいです。</p> <p>400</p>	<p>例えは、映画など見ると感動したことになったことはみんなあると思います。他には、自分は感動しても他の人はしなかったりがあります。こんなところの本と似ています。本の好みは一人一人が違います。それがいいです。</p> <p>300</p>	<p>例えは、映画など見ると感動したことになったことはみんなあると思います。他には、自分は感動しても他の人はしなかったりがあります。こんなところの本と似ています。本の好みは一人一人が違います。それがいいです。</p> <p>300</p>
--	---------------------------------	---	--	--	---	-------------------------------------	---	--	---	---	---	---	---

資料④【子どもが書いた読書論（右：A児、左：B児）】



(20)

【本は友達】○「本のページを開いたら『楽しいよ、読んでみて』と言っているように聞こえる。本は私たちと友達になりたいんだと思う」

○「私にとって本は「友達」だと思っている。友達が大切なように、本も大切だと思う。なぜかという、本は人を楽しませたり、感動させたりする力があるから」

○「本は大事なことを教えてくれる友達だと思う。本と人間は同じようなもの。楽しくなる本、悲しくなる本があるように、人間も楽しくなる時、悲しくなる時がある」  
本を身近に感じられたことも成果の一つである。

【本は生き物】本を生き物と考えている子は、「本とは生き物だと思う。生き物はかわいがるとなつてくれる。本を大切に扱うと本の世界に連れていってくれる」と、両者に相互作用があるようにとらえられた。

【本は心】本を心だとする子は、「本は心の一部のような気がする。だから、たくさん本を読むと、考えが広がると思う」と、思考の広がりを目を向けられた。

「本は知識を与えてくれるもの」を書いたA児は、本は知識を与えてくれる大切な存在だとし、心が成長するものととらえている。

「僕にとっての本」を書いたB児は、本を無数にある星に例え、星を探すように本を探すことの楽しみを挙げている。

## (2) 読書論を読むこと

文集にしたことで、友達同士の読書論を交流することができた。そのことが、読書する契機にもなり、書くことへの刺激にもなった。

最後に、単元を通してのA児の感想を紹介する。

「みんな、自分で考えたとは思えないほどよかった。Kさんは「本はそばにいてくれます」のところがすごくいい。Hさんは教科書の文みたいでした。「好きになった本は最後まで読んであげてください」は本をほめているみたいです。Mさんは本と人間は同じだということを知ってくれた」。

(ふなつ けいじ・始良市立加治木小学校)